



方剤解説

加味逍遙散の解説

黄 懐龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

一、肝脾不和とは

(一) 肝脾の生理機能

肝は血を藏し疎泄を主り、「体陰用陽」で、陰血をもとにして肝気の疎泄が順調に行われる。性喜条達、その脈は脇肋に分布し、目に開竅する。

脾は統血を司り、運化を主る、気血生化の源であり、四肢筋肉を司る。

(二) 肝脾不和

情志不調、或は恼怒傷肝（悩むと怒るより、肝を傷つける）など内傷七情により、肝気が鬱結され、肝木の条達、疎泄ができなくなる；陰血が暗耗され、脾虚気血生化不足などにより、肝陰が虚すため肝気の疎泄できなくなって、肝気鬱結、気血不和状態になる、火に化し、更に横へ逆行すれば、脾胃を犯し、脾胃の運化を司るが失われ、**肝脾不和**の病理状態が現れる。

(三) 調和肝脾

本証の病理は肝鬱血虚、肝気鬱結が主体になるから、「内経」の「達之」（肝木の鬱結に対して疏泄条達すべきである）に従って、肝木正常の条達の生理状態に応じて、鬱滞された気を疏泄して、同時に営血を養い、脾気を健補し、肝脾調和して、疏肝養血、健脾補気の目的を果たす。

逍遥散は四逆散で加減してから得られた方剤である。主に肝鬱血虚脾弱による月経不調、胸脇脹痛、或は肝臓疾患などに使用される、疎肝理気健脾して体が、気血和暢、心身とも健康の状態を回復して、悠悠自適「逍遥」させるので、「逍遥散」と名付ける。

二、加味逍遙散の組成と効能

(一) 組成と効能

加味逍遙散 《内科摘要》

加味逍遙散は疏肝健脾の逍遙散に血熱を涼し心肝の火を瀉する牡丹皮と三焦の火を瀉し導熱下行する山梔子を加えて、組成された疏肝健脾、和血調経、清熱瀉火の方剤である。

組 成	柴胡、当帰、芍薬、白朮、茯苓、炙甘草、煨姜、薄荷、牡丹皮、山梔子
効 能	疏肝健脾、和血調経、清熱瀉火
主 治	肝鬱血虚化火

原 典

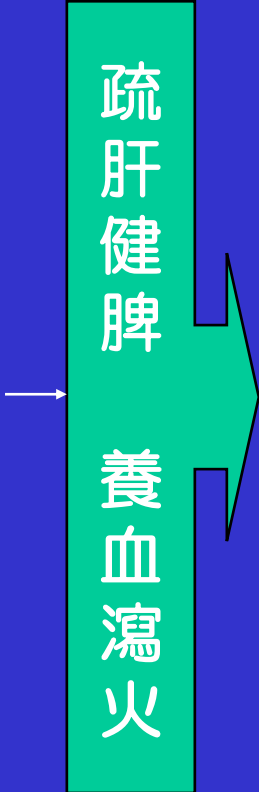
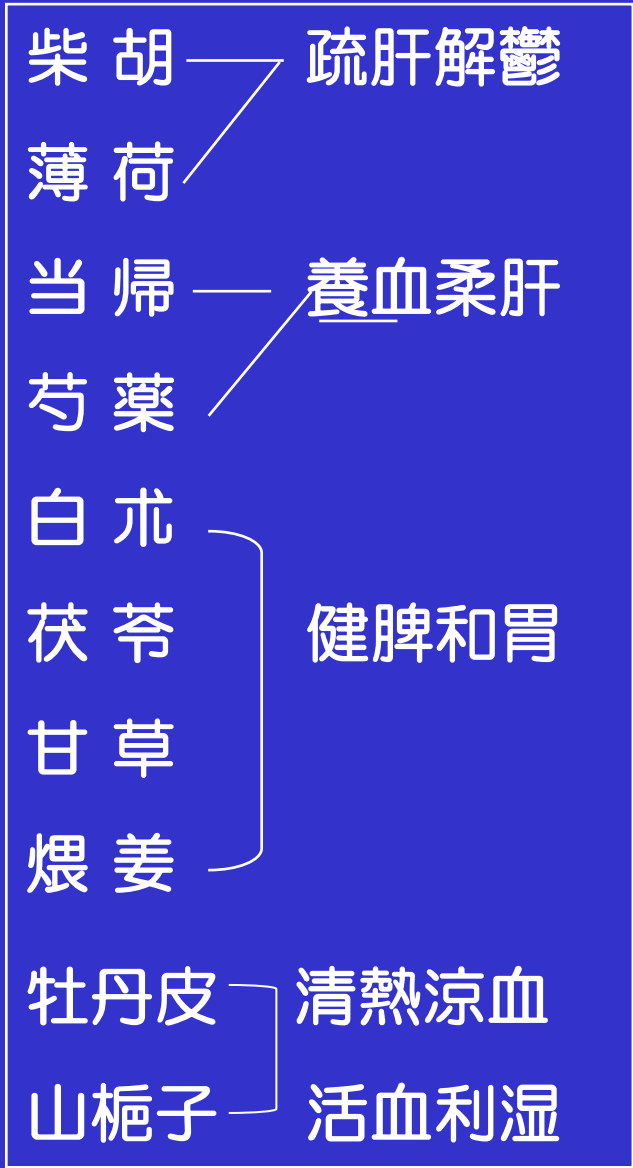
《和劑局方·卷之九·治婦人諸疾篇》

「逍遙散、治血虛勞倦、五心煩熱、肢體疼痛、頭目昏重、心悸頰赤、口燥咽乾、癆熱盜汗、減食嗜臥、及血熱相搏、月水不調、臍腹脹痛、寒熱如瘧。又療室女血弱陰虛，宮衛不調潮熱、肌體羸瘦、漸成骨蒸」。

• (二) 処方解説

- 本方は疏肝解鬱の柴胡が主薬で、鬱滞した肝気疎通し、条達させ。牡丹皮が血熱を清し心肝の火を瀉す、山梔子が三焦の火を瀉し導熱下行する、少量の薄荷が疏散条達の効能を強める、三薬が柴胡の疏肝清熱を補助して、臣薬である。養血活血の当帰と養血斂陰の芍薬は、肝の陰血を補充して柔肝し疏泄を調整する。健脾益気の白朮、茯苓、煨姜は脾運を高め、気血生化の源を益し、佐薬である。炙甘草は調和諸薬、使薬である。全方で、疏肝清熱、健脾養血の効能である。

加味逍遙散の構成と効能



(三) 作用機序の考察

本方は疏肝解鬱を主とし、健脾和営、清熱瀉火を組み合わせた処方である。精神的ストレス、自律神経の失調、栄養不良状態、消化機能低下などのさまざまな病態が混在した複雑な状態に用いられる。

- 1) 疏肝解鬱：肝気を疎通条達させ、自律神経の調整、鎮静に働く。
…柴胡、芍薬、薄荷
- 2) 補血柔肝：肝の陰血を補充して柔肝し、身体を栄養滋養し内分泌を調整する。
…当帰、芍薬
- 3) 和血調経：気血調和、肝気条達して内分泌や自律神経を調整して月経を調整し正常化する。…当帰、芍薬、牡丹皮
- 4) 健脾和胃：補気健脾、運化機能よく消化吸收を促進し、肝脾調和する
…白朮、茯苓、甘草
- 5) 清熱瀉火：清熱涼血・瀉火により、鎮静、自律神経系興奮の抑制、解熱、消炎、止血作用に働きも持つ。イライラ、怒りっぽい、顔面紅潮、口干などを緩解する。
…牡丹皮、山梔子

三、加味逍遙散の臨床応用

(一) 主 治

憂鬱、倦怠感、胸脇乳房が脹って痛む、イライラ、怒りっぽい、ほてり、顔面紅潮、口乾、頭痛、めまい、のぼせ、食欲不振、自汗、寝汗、少腹脹痛、月経不順、月経前症候群、更年期障害、脈が弦数など。

(二) 応用ポイント

肝鬱血虚：倦怠感、イライラ、ため息、皮膚につやがない、手足のしびれ、筋けいれん、目が疲れる、動悸、月経不順、月経困難、更年期障害など。

肝鬱化火：イライラ、怒りっぽい、のぼせ、眩暈、顔面紅潮、口乾苦、脈弦数。

肝脾不和：胸脇が脹って痛む、イライラ、怒りっぽい、ため息、食欲不振、腹部膨満感、腹痛、腸鳴、軟便や下痢、舌苔白膩。

(三) 臨床応用

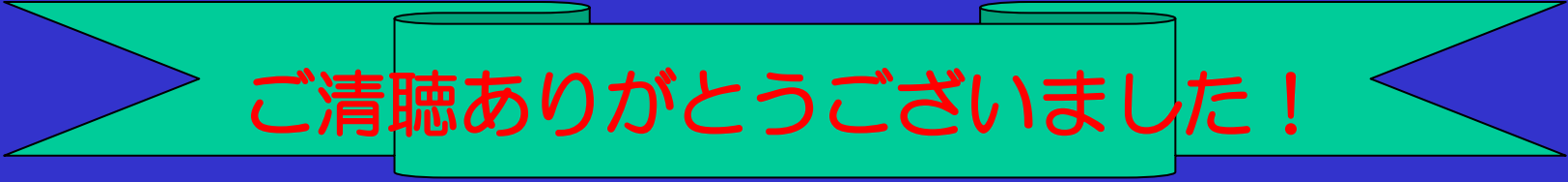
肝鬱血虚化火によって生じた怒りっぽい、のぼせ、ほてり、口渇、頭痛、微熱、寝汗或は出血などの熱症を伴うもの

- ・ **婦人科**：不定愁訴、更年期障害、月経不順、月経困難症、月経前症候群、子宮内膜炎、子宮筋腫、乳腺炎など
- ・ **精神科**：抑うつ、不眠症、自律神経失調症、神経症など精神神経症状（両脇が脹って痛む、憂鬱感、イライラなどを伴う）
- ・ **消化器**：神経性胃腸炎、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群（IBS）など
- ・ **肝胆疾患**：慢性肝炎、黄疸、胆嚢炎、慢性膵臓炎など

- (四) 加減応用：
 - ①肝鬱血虚、生理不順、倦怠感、脈弦虚などに
 - 熟地黄或は生地黄を加えて、養血調經の効能を
 - 増強する。(四物湯)
 - ②気滞脇痛が酷ければ、白朮を香附子、延胡索
 - に変えて、行気止痛する。(四逆散)
 - ③肝鬱血瘀の乳房塊或は腫瘍があれば、莪朮、
 - 穿山甲、青陳皮を加える。(桂枝茯苓丸)
 - ④肝旺脾虚の腹痛下痢に、「痛瀉要方」を加え
 - て、瀉肝補脾止痛する。(胃苓湯)

(五) 使用注意点

- ・脾胃虚寒、脘腹冷痛、大便溏瀉の患者には慎重投与すること。



ご清聴ありがとうございました！